OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 『あぁ〜！宿舎の音ォ！！』/ 新田悠樹
—あいうえお作文を添えて—

2．『筑波大は広いからつらいな。』/ 山田優芽
「エクストリーム移動」をしてみた

3．『看板が語る昔の筑波大』/ 天野隼太
今も残る「ナンバー学群」

4．『宅通民？宿舎民？』/ 加藤緑
宅通民を経て半分宿舎民になりました。

5．『研究学園都市のシンボル“栓抜き塔”に行ってみた』／川上真生
展望台から見る研究学園都市の街並み

6．『DELAY 1973』/ 野澤遼太郎
或いは 50 年前、何が生まれて死んだのか

1. あぁ〜！宿舎の音ォ！！

―あいうえお作文を添えて―

大学生活は、あっという間なものですね。学生宿舎に住み続け、早くも３度目の梅雨を迎えようとしています。はじめて記事を投稿させていただきますが、入学以来の宿舎民である私からは、最近の宿舎事情についてお届けしたいと思います。

部屋の引っ越し（平砂から一の矢）を今年の４月に行った私は、一の矢に住み始めてまだ２か月程度です。屋内の様子や建物の外観など、平砂宿舎とはだいぶ異なる部分も多いですが、どちらにもそれぞれの良さがあるように思います。「のや」などとも呼ばれる一の矢の良いところは、やはり豊かな自然でしょうか。

広いとはいえない部屋、虫さんがたくさん出てくる共用部など、あまり評判は良くないようですが、私はなんだかんだで宿舎が嫌いではないです。さいきんでこそ入居率はやや低下しているようですが、学生時代を宿舎で過ごしたという卒業生の方は多くいらっしゃるのではないでしょうか。６月・梅雨どき前の、一年で最も良い日和が続く今日この頃。畳６枚分の広さがあるらしい一の矢の一室から、宿舎の近況をお伝えいたしましょう。

とはいえ、私の文章力では「筑波の風」をしっかりお届けできるか心もとないのが正直なところ。いっそのこと、文字情報ではなく音声をお楽しみいただくというのはいかがでしょう？うつくしい自然の音や素敵な歌などではありませんが、宿舎の民ならば一度は聞いたことがあるであろう、懐かしの生活音をお届けします（以下の動画は映像ではなく音付きの画像です。音声のみをお楽しみください）。

けたたましい閂（かんぬき）の音から、まずはお届けしましょう（音量注意）。れっかし、錆のついたゴミ保管庫の扉が開く音です。どうでしょう、宿舎はゴミの日が定まっていないので毎日のように聞いていたという方もいらっしゃるのではないでしょうか？

https://youtube.com/shorts/ABqgvPkLanU?feature=share

実は私が一番好きな音でもあります、洗濯機のアラームを続いてお聞きください。際限なくたまる洗濯物の処理は面倒でもありますが、このアラーム音はにぎやかで良いなと個人的には思う次第です（比較的新しい機種なので、聞き覚えがない方も多いかもしれません）。

https://youtube.com/shorts/c4VlVeKwRig?feature=share

にぎやかなアラーム音の次は、瞬間湯沸し器の音をご堪能ください。はじくお湯の音、ボッという発火時の音、つまみを回す音など、懐かしさを感じていただけたら幸いです。

https://youtube.com/shorts/l_Wo_bhoLEM

4つ目は、宿舎ご自慢の防犯装置「静脈認証システム」のロック解除に失敗してイライラしているときの音です。畳6枚分の狭いワンルームで、しかも水回りが共同ともなると、つい防犯意識が薄れがちなことは否めません。そこで大学が設置したのが、静脈認証システムです。これは2005年から各棟の玄関に導入されました（オートロックのようなイメージ？）。その名の通り静脈を認証するのかと思えばそうではなく、実際には暗証番号を入力してロック解除します。これがすんなり上手くいけばよいのですが、入力ミスで鍵が開かないこともしばしば。しかも悲しいかな、この頼りになる宿舎の番人は、ロック解除時に「ようこそ」とは言ってくれても「おかえり」とは決して言ってくれないのでした（泣）。

https://youtube.com/shorts/Gp4e4enlwg8?feature=share

・一の矢宿舎の開錠音はこちら

https://youtube.com/shorts/yr80QWZ71ho

かなり「細かすぎて伝わらない」内容となってしまいましたが、いかがでしたか？なつかしさを感じていただけたら嬉しいですし、宿舎に入居していなかった方々にとっても宿舎民の生態を垣間見ることができるような内容となっていましたら幸いです。いま、大学では宿舎のリニューアル工事が計画されています。となれば、何気ない生活音も貴重な記録になるかもしれないというのは、ちょっと大げさすぎるでしょうか。おもいでも、何気ない生活のひとコマも、ちょっとの不満も、たくさんの虫さんも、全部ひっくるめて、あの狭い部屋には信じられないほど多くのものが詰め込まれています。もう戻らない日々になってしまうという自覚があるからこそ、私は宿舎が嫌いになれません（ べ、別に好きではないんだからね！ ）。

いい加減に、筆を置くことにしましょう。まっぴつですが、OB・OG のみなさまのご活躍をお祈りします。すてきな日々をお過ごし下さい。

（人文・文化学群　人文学類３年　新田悠樹）

2. 筑波大は広いからつらいな。
「エクストリーム移動」をしてみた

「エクストリーム移動」。それは、筑波大学最南端の春日エリアと北端の天王台エリアの間（約３km）を休み時間の 15 分間で移動すること。
※天王台エリア→１～３学、中央図書館、本部棟などがある地区を便宜上そのように書かせていただきます。

大学 4 年の春～。大学最後の履修組みに苦戦中～。私は教職課程を履修しており、課程上の「大学が独自に定める科目」の単位数を満たすために、「学校図書館論」（木曜日３、４限）を履修することにしました。さらに、比較文化学類の選択必修科目（通称「AC６」※）を取るために、「比較思想研究」（木曜日５限）も履修したいなあと思っていました。

しかし……「学校図書館論」は春日エリア開講、「比較思想研究」は天王台エリア開講。ワタクシ、大学生活 4 年目にして「エクストリーム移動」に遭遇したのです！「行けないこともないだろう」「少しの遅れなら許されるでしょ」と楽観的にいたものの、「雨だった時どうしよう」「テストの時は遅れたらどうなるんだろう」など心配が上回り、直前で泣く泣く「比較思想研究」の方を諦めることに。エクストリーム移動、憎し。

しかし、本当にエクストリーム移動はつらいのでしょうか。「エクストリーム移動はつらいぞ」という噂だけで、履修を諦めてしまった私の判断は正しかったのでしょうか？ということで、エクストリーム移動をやってみることにしました。ただ何もない時間に走っても現実味がないので、実際の授業時間に合わせて動いてみることにしました。
以下の通り。
実施日：4 月 21 日（金）
授業:「アジアの民族と文化Ⅰ」（４限）（天王台エリア）→「読書と豊かな人間性」（５、６限）（春日エリア）
手段：自転車
※チャイムと同時に教室を出て、次の授業のチャイムが鳴り終わる前に教室の椅子に座ること

スタートは２ C 棟の 404 教室（よりによって４階です）。本来私はこの授業を取っていないので、授業終わり５分前から教室前に待機し、チャイムと同時に（教室を出た想定で）動き出します。

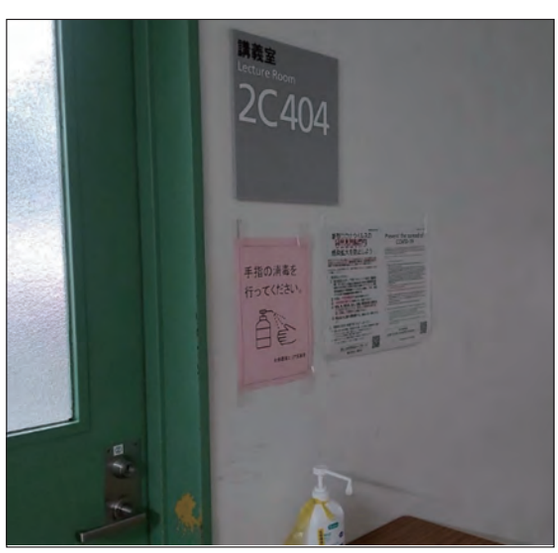


写真１　スタートは４階教室（待機中）

「キーンコーンカーンコーン」。チャイムがなりました。4階から一気に階段を駆け下ります。ここは順調です。おっとここで早々に、駐輪場で自分の自転車が見つからないアクシデント！コロナ禍でほとんどオンライン授業を受けてきた私にとってこれは盲点でした。何とか探し出して再出発です！！

しかしここでまた思わぬことが。人、自転車、人、自転車―。授業後にわらわらと教室から出てきた人や移動する自転車で溢れかえっています。さらに、駐輪場外に止められた自転車や、2 列、3 列走行の自転車に動きを止められ、スムーズに進めません。イライライライラ……こっちは急いでるんだア！さらに難関、なんと坂の多いこと。上り坂は必死こいて漕ぐし、下り坂は他人と衝突しないようにブレーキを最大限に掛けながら進むし。

あゝ、ストレスッ！！！やっとの思いでキャンパスを抜け、大学カスミ（平砂宿舎手前）を通過。ここで出発から7分経過していました。

平砂宿舎からは比較的人が少ないのですが、坂がつらいです……。上っては下りを繰り返します。ペデストリアンデッキを抜けて、春日エリアを目前に、赤信号に引っかかりました。これがロスタイムになり、構内に入った時点で14分経過。あと1分しかありません。

写真２　もう教室は目の前だったのに（青矢印）

駐輪場から教室のある建物は 150 メートルほど。ゴールとなる 7 A 棟 205 教室は 2 階にあります。果たして間に合うか……？チャイムが鳴り響く中、疲弊した足を何とか動かして猛ダッシュ。階段を駆け抜けます。あと一歩！……というところでチャイムが鳴り終わり、ゲームオーバー。教室を目の前に、悔しさの残る敗退です（これくらいの距離なら遅刻にはならない気はするんだけどね）。

結果としては、「できなくはない」という感じでしょうか。しかし、前の授業の先生の話が長引く、途中で転ぶ、トイレに行きたくなるなどのことが起こると、時間通りのゴールは難しくなるでしょう。そして何より疲れることこの上なし。実施時間は 25℃超えの晴天で、かなり汗をかきました。これはまだ良い方で、逆に雨だったらどうするんだろう……。

■実際にエクストリーム移動をするＯさん（比較文化学類３年）の話

Ｏ氏は比較文化学類ながら、司書教諭の資格を取るために春日エリアで開講される授業

を履修しています。春学期でエクストリーム移動は木曜日と金曜日の２回。つ、つらそう……。話を聞いてみました。

Q. エクストリーム移動前後の科目は？
A. 司書教諭の科目（春日エリア）と比較文化学類の選択必修科目（通称「AC６」※）（天王台エリア）です。去年他学類の授業を取りすぎてしまったので、今年こそ AC６科目の単位を集めたい……。

Q. エクストリーム移動、実際どうですか？
A. 何とかなるだろうと思っていましたが、意外と疲れます。これからの夏の暑さが心配です。学内の中央図書館前と体芸エリアは混んでいてスピードが全然出せません。さらに自転車を漕ぐのが遅い方なので 20 分くらいかかってしまいますね。エクストリーム移動後の授業は、ほぼ満席の授業なので、遅れてしまうと席がありません。椅子を教室外から持ってきてそこに座って受講するようにしています（＝机なし）。

Q. な、なんと……。
A. 一度、循環バスでエクストリーム移動してみたこともあります。バス停の時刻では、授業の２分前にはたどり着ける予定でした。余裕を持って停留所に着いたものの、バスは 10 分遅れ……。しかも満員。一番後ろに乗ってしまったので、目的地で降りられないのではと不安になりました。何とか降りましたが、着いたのは授業開始から 20 分後でした。

Q. 先生の話が長引くことは？
A. あります。エクストリーム移動前にある授業が、興味関心の高い内容なので、むしろ授業後に先生にお話を聞きに行きたいくらいなんですが……。

Q. 秋学期もエクストリーム移動はあるのですか？
A. 春日エリアでの授業はありますが、昼休み後なので、エクストリーム移動はしなくて済みそうです（笑）

　こんなつらい思いができるのも、広いひろーい筑波大ならでは……？　どうか O 氏は、この経験を糧にしてほしいと思います。果たして糧になるのでしょうか？エクストリーム移動が糧になったという方がいればご連絡くださいませ。

※AC6 …比較文化学類の選択必修科目で、科目番号が「AC6」で始まることからこのように呼ばれる。42 単位以上取る必要があり、比文生は「AC6」を集めるのに必死になっている（主観）。

（人文・文化学群　比較文化学類４年　山田優芽）

3. 看板が語る昔の筑波大

今も残る「ナンバー学群」

みなさんこんにちは。すっかり暑くなってきましたね。キャンパスには緑が生い茂り、草をすり潰したような強烈な臭いがただよっています（私は意外と好きです）。今年入学してきた１年生のように虫たちも活発に動き始め、そこらじゅうを飛び回っています。自転車をこいでいると、口や鼻、耳の中にコバエが侵入してきてなんとも嫌な気持ちになる季節でもありますね。たまに、紙に強く押し付けすぎてちぎれた消しゴムのカケラくらいの大きさの虫が顔に激突してくるときがありますが、あれはたまったもんじゃありません。気づかないうちに上着やリュックに張り付き、いつのまにか家に侵入している輩もいますが、あれが一番たちが悪い。いつもテッシュで優しく包み込み、外に投げ捨てております（テッシュごと捨てているわけではございません）。

つい、虫の話をしすぎてしまいました。とにかく私が虫が苦手ということを分かっていただければそれでいいです。そんなことはどうでもいいですよね（笑）本題に入りたいと思います。

■出会いは突然に

あれは３年前のことです。当時フレッシュマンだった私は、自転車に乗りキャンパス内を走っていました。あの日も、草をすり潰したようなあの臭いがしていたことを覚えています。少し汗ばみながら、文サ館（文化系サークル会館の略）の前を通ると、ふと小さな看板が目に止まりました。その写真がこちらです。

文サ館前で見つけた「第１学群」

「第１学群？そんな学群あったっけ？」。家に帰ってボロボロの大学のパンフレットを見返しましたが、そんな名前の学群は見当たりませんでした。当時は新型コロナの影響

で図書館が入館禁止だった（気がした）ので、仕方なく（笑）インターネットで「第１学群　筑波大学」と検索してみました。どうも、これは筑波大学に昔存在した学群であったことだけは分かりました。そう言えば受験生時代、筑波大学の赤本を過去に遡っていく過程で「第１学群」という文字を見た気がします。意外にも、いわゆる「ナンバー学群」と私のファーストコンタクトは高校時代だったわけです。

■「ナンバー学群」とは？？

私が関心を持った「ナンバー学群」。これは、筑波大学が 1973 年に開学してから、2007 年３月（2006 年度）まで存在していた学群です。第１から第３学群まであり、第１学群は、人文学類、社会学類、自然学類、第２学群は比較文化学類、日本語･日本文化学類、人間学類、生物学類、生物資源学類、そして第３学群は社会工学類、国際総合学類、情報学類、工学システム学類、工学基礎学類で編成されていました。私が今在籍している比較文化学類は第２学群だったわけですね。

「ふむふむなるほど～」。ナンバー学群の基本的なことは分かりました。しかし同時に、「どういう分け方をしているんだろう？」という疑問が浮かびました。例えば、第１学群について、人文学類と社会学類が同じカテゴリーにいるのはなんとなく理解できますが、なぜ理系の自然学類が入っているのでしょうか。その答えは『筑波大学新聞で読む筑波大学の 40 年』に書いてありました。同書によると、あくまで執筆者の解釈ではありますが、第１学群は「各分野の基礎（自然科学、社会科学、人文学）を学ぶ」まとまり、第２学群は「応用分野（比較文化学や生物学など）を学ぶ」まとまり、そして第３学群は「先端分野や学際領域（情報システム、社会工学、国際開発学など）を学ぶ」まとまりだそうです。納得しました。文理関係なく、学問の段階的なまとまりになっていたのだなと思いました。ナンバー学群は、「新構想大学の中核としての文理融合、学際性」という開学以来の筑波大の特色を表すものだったそうです。

ではなぜ、その組織形態が廃止され、現在の学群・学類になったのでしょうか。その背景には、「新たな学問領域に柔軟に対応」することと、「受験生や社会から見て『分かりやすい』教育組織」にすることの二つの狙いがあったそうです。

確かに、外から見た「分かりやすさ」という点から考えれば、ナンバー学群よりも、学問領域の近い学類で編成する現在の学群の方が分かりやすいですよね。私の所属する人文・文化学群は人文系、文化系の学類三つ（人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類）で編成されています（学類まで合わせると「文」という漢字が必ず三つ入っているので、声に出して読むと面白い学群です）。でも「ナンバー学群」にも魅力があります。どっちが良いかに関しては、私も分かりません。

■意外にも身近な「ナンバー学群」

前述のように 2006 年度で廃止された「ナンバー学群」ですが、姿かたちがまるっきりなくなってしまったわけではありません。筑波キャンパスの中地区（北は虹の広場、南は松美池あたりの区画）は今でも「第一エリア」「第二エリア」「第三エリア」という名前が付けられています。学生たちも、「次の授業の教室、３学だって～」「お腹すいたし、2 学食堂行かない？」など、その名称を使っています。

まぁ、厳密に言うと今の学生が使っているのは「ナンバー学群」を意識しているからではなく、あくまで場所の名前として覚えやすいからでしょう。学群の制度は変わっても、建物やエリアの名称が変更されなかったことが影響しているのではないでしょうか。その一つに、私が文サ館前で見つけたあの看板があると思います。

自分から語り掛けてくることはなく、一見どこにでもありそうなありふれた看板ですが、昔の筑波大の名残を伝える貴重な資料なのかもしれませんね（笑）。みなさんも、筑波大に久しぶりに帰ってきたら、ご自身が送った学生時代の名残を探してみてもおもしろいかもしれませんね。はたしてあと数十年後、私にとって「あ！これ自分が学生だったときにあったやつだ！」と感動できるものは何になるのでしょう。意外と、身近にある看板かもしれません。

参考文献

福原直樹、伊藤純郎編『筑波大学新聞で読む筑波大学の 40 年』（筑波大学出版会、2013 年）

（人文・文化学群　比較文化学類 4 年　天野隼太）

4. 宅通民？宿舎民？

宅通民を経て半分宿舎民になりました。

新年度が始まる４月は同時に新生活の始まりとなる人が多いのではないでしょうか。私は今年も所属は生物学類と昨年通りですが、居住地と通学形態が変わりました。

現在は半分宅通、半分宿舎住という状況です（正確に言うと半々ではありませんが便宜上そう言っています)。授業がある平日は一の矢学生宿舎で暮らし、土日は実家に帰ります。

完全に宅通民だった１年次は埼玉県越谷市にある実家から通っていました。通学ルートは、まず自宅から自転車で 15 分ほどの最寄り駅から東武スカイツリーラインに乗車、南越谷駅で武蔵野線に乗り換え、その後南流山駅でつくばエクスプレス線（TX）に乗ってつくば駅に向かいます。駅から大学までは大学循環バスを使いました。初対面の人に「家から大学まで２時間かかる」と言うと必ずびっくりされ、「大変だね」のリアクションが返ってきます。その次にどうやって通っているのかを聞かれるため、上記のルートを数えきれないほど説明してきました。「１日の６分の１を移動に使っているんだね」「つくばで一人暮らしをした方が楽なのでは」と言われることもしばしばありました。

宅通時代、帰宅時間が遅いと誰もいない
TX の車両に乗ることもありました

「一人暮らしをするならアパートだな～」宿舎の評判を周りの人から聞いているうちに、そう思うようになりました。実際、同期で宿舎民から宅通民、もしくはアパ民に乗り換えた人はたくさんいましたが、逆のパターンは聞いたことがありません。宿舎ってそんなに人が暮らせないやばい場所なんだ――誰かが「脱獄」するたびに思います。

「つくばで暮らしたい」。そんな思いが１年次の秋から日に日に強くなりました。そして今年の２月、大学近くの不動産屋に行ってアパートを探しましたが、ここでは詳説できない諸事情でアパートは諦めざるをえませんでした。当時は宿舎も考えましたが、改修棟の申し込みは既に終わっていて、宿舎民の先輩から「未改修棟はまじでやめておけ」と言われていたので、泣く泣く２年次も宅通なのかと絶望していました。

しばらく時間が経ち、今年度の授業はほとんど対面になることと、生物学類の専門科目は１限が多いことを聞き、このまま宅通でいいのかと再び考えました。「宅通はやっぱり多苦痛」を原動力に（？）３月下旬、勇気を出して平砂宿舎共用棟の事務室に行きました。「生

物学類だから一の矢です。未改修棟しか入れませんが、大丈夫ですか？」と聞かれ、あまり躊躇せずに申し込みました。１枚の書類を記入し、学生証を提示して残りの入居書類を受け取るだけで、申し込みの過程は驚くほど簡単でスムーズに進みました。

４月１日、入居日。いつものように１人で実家から２時間かけて一の矢学生宿舎の事務室に向かいました。入居書類を提出し、鍵と寝具を渡されました。鍵を手にした瞬間、天下を取ったくらいうれしくなり、心が躍りました。

息苦しくてつぶされそうになる満員電車、学生や教職員で長蛇の列ができるつくばセンター６番乗り場、すし詰め状態で立つことが精一杯のバスの中……。今までの辛い経験から解放されるんだ！――誰もいないところで思わずガッツポーズしながら喜んでいました。

４月下旬、一の矢学生宿舎で出会った猫ちゃん

早速部屋の中を見ました。ベッドと机に加え洗面台が置かれていて、実家の部屋よりやや狭いものの、思っていたほど悪くない。第一印象はこんな感じでした。「あの時、先輩のアドバイスを聞かなくて良かった。未改修棟も一応住める場所だ」。

執筆時点で宿舎生活は１カ月経ちました。特に不満はなく、強いて言うならシャワーに入る時、毎回シャンプー類を部屋から持ち出してまた持ち帰ることが多少面倒、それくらいですね。夏になるともしかしたら一の矢で有名な「仲間たち」が出てくるかもしれません。その時になったら対処法を考えようと思います。

また、単に私が疲れているだけかもしれませんが、宿舎のベッドはなぜか気持ち良く、一度横になるとなかなか起き上がれません。朝も授業に間に合うぎりぎりまで寝ていることが多いです。

部屋から授業でよく使う第二エリアまでは自転車で感動の６分で到着します。今まではこの20倍もの時間をかけていたのは果たして何だったのか……。

宅通民からすると、大学から近いことは宿舎民の良いところですが、その安さも語らずにはいられない魅力です。移動距離が長く、TX が高いこともあり、宅通時代の１カ月の定期代は２万 7480 円、駐輪代を入れると３万円です。未改修棟の宿舎費は１カ月で１万5380円、シャワー代や洗濯代、電気代などを合わせても２万円ほどでしょう。

冒頭でも書きましたが、平日は宿舎で、休日は実家で暮らしています。埼玉で家庭教師のアルバイトをまだ続けていて、１週間に１回は帰らなければならないためです。（早くバイト辞めたい……！！）

今の授業はほぼ対面で、春学期は火曜日以外毎日１限が入っています（ちなみに秋学期は毎日１限が入る予定です）。朝８時に起きても１限に間に合うことはいかに幸せなのかを実感している日々です。宅通時代は５時に起床し、６時に家を出ないと危ういです。三つの路線とバスを使うため、どちらかが遅延するとそのあとの予定は全て狂います。また、朝のバスは混雑しすぎて予定していたバスに乗れず、次のバスを待つこともよくありました。このように、宅通は単に通学距離・時間が長いだけではありません。長い分のリスクも高くなります。宿舎生活で考えられるリスクは、自転車がパンクして「人権」を失うことくらいです。その場合は大学循環バスを使用するか、最悪全力ダッシュで教室に向かえば大幅な遅刻は避けられるでしょう。

皆様の中にも通学形態を変えたことがある方もいらっしゃるかもしれません。宅通、アパート、宿舎、どちらが良いのか、各個人の価値観や生活習慣によって答えが異なると思います。私は現在一の矢学生宿舎で暮らせることに感謝しています。

・宅通と宿舎での生活で大きな違いがある部分をまとめてみました

	１カ月の基本料金	通学時間	移動距離
埼玉県越谷市から宅通	約３万（定期代＋駐輪代）	約 120 分	約 50 km
一の矢学生宿舎（未改修棟）	約２万（宿舎費＋もろもろ）	約６分	約 1 km

（生命環境学群　生物学類２年　加藤緑）

5. 研究学園都市のシンボル“栓抜き塔”に行ってみた

展望台から見る研究学園都市の街並み

5月に入り、暦の上では初夏を迎える季節になりました。学内を自転車で移動していると、新緑に色づいた枝葉から木漏れ日が眩しく差し込んできます。今年度から対面授業が基本となり、学内のペデストリアンデッキでは、自転車の渋滞もしばしば見られるようになりました。自転車に乗って学内を移動する大勢の筑波大生を見て、やはり自転車は「人権」なのだと改めて実感しました。

そんな「人権」を支えているのが平塚通り沿いに店を構える井上サイクルです。元店主で現在も店頭に立つ井上康男さん（72）を筑波大学新聞第376号の「桐の葉と共に」という連載で取り上げました。自転車や礼儀に関して、学生につい口出ししてしまうという康男さんの人柄から一部の学生には敬遠されていたそうですが、取材を通して学生の安全面や将来のことを気に掛ける愛情の裏返しであることが分かりました。先日、後輩が「自転車がパンクした」というので筆者も同行して井上サイクルへパンク修理をお願いしに行きました。康男さんはパンク修理をしながら、記事を見た卒業生から電話が掛かってきたことや筑波大関係者から直接、「記事読んだよ！」と声を掛けられたことを明かしてくれました。入学シーズンには井上サイクルで自転車を買い求める新入生もかなりいたようです。

マスクを外しながらの康男さんとのやり取りに大学周辺もコロナ前のにぎわいが戻ってきていることを実感しました。

芝生の緑と空の青さが映える栓抜き塔

さて、本題に入ります。今回は、筑波大生なら一度は目にしたことがある「松見公園展望タワー」を紹介したいと思います。45㍍の高さがある「松見公園展望タワー」はつくば駅からペデストリアンデッキを約 1km 北上した松見公園内にあります。調べてみるとその見た目から別名「栓抜き塔」とも言われているそうで、ここでは親しみを込めてそのように称したいと思います。目の前を通り過ぎる筑波大生は多くても意外とタワーに登った経験がある人は少ないのではないでしょうか。

栓抜き塔が描かれたスタンプ

筆者がこのタワーに興味を持ったのは、趣味である駅スタンプ巡りをしていた時のことでした。駅スタンプ巡りとは、鉄道の駅にあるスタンプを収集して回ることです。駅によって、周辺の観光地や名産品などがスタンプに盛り込まれており、デザインの違いを楽しむことができます。また、

コイに餌をやる親子連れと
木陰で休むハト

駅周辺の特色について知ることができるのも魅力の一つです。JR は鉄道開業 150 周年を記念して国鉄時代のスタンプを再現した「懐かしの駅スタンプラリー」（2023 年 1 月 13 日～ 3 月 6 日）を実施していました。土浦駅もスタンプラリーの対象となっていたのですが、スタンプのデザインがなんと「筑波研究学園都市の駅」となっており、筑波山とともに栓抜き塔も描かれていたのです。「つくばの風景が駅スタンプに描かれた」という喜びとともに「一度、松見公園の栓抜き塔に登らねば」と思い、今回訪れてみたわけです。

前置きが長くなりました。筆者が訪れたのは GW 終盤の 5 月 6 日でした。松見公園には池や遊具のある公園があり、たくさんの親子連れで賑わっていました。子どもの日の翌日に鯉に餌やりをする子どもの姿を見るとなんだが微笑ましくなりました。公園内にある管理事務所の職員さんにお話を伺うと、栓抜き塔のある松見公園は 1976 年（昭和 51 年）に開園したそうです。筑波大は 1973 年（昭和 48 年）に開学しているので筑波大の 3 歳年下というわけです。周辺にはエキスポセンターや天久保商店街、筑波大学病院などが立ち並び、これまで観光客や周辺住民、筑波大生にとっての憩いの場として機能してきたのではないでしょうか。

タワー内部を案内してくれたハト

栓抜き塔の内部に入るためには入場料 100 円を支払います。タワー内部にはエレベーターと階段があり、屋上の展望台へ行くにはどちらか選ぶことができます。筆者は、日頃の運動不足解消のためにも約 200 段ある階段を登る選択をしました。一歩一歩踏みしめながら階段の中腹に差し掛かると 1 羽のハトと出会いました。そのハトは筆者が前へ進むとそれに合わせて階段を上がるのです。まるで案内してくれているようでした。ハトの案内（？）も受けながら残り半分の階段を上がっていき、ようやく屋上へ着きました。案内バトは屋上へ着くなりもう 1 羽のハトと並んで日向ぼっこを楽しんでいるようでした。

屋上は日差しが照りつけていましたが、強い西風が吹き、体感はとても気持ち良かったです。北には筑波山、南にはエキスポセンターの H-2 ロケットがはっきりと見えました。日常の景色を俯瞰して見るようでとても興味深かったです。特に西側の真下を覗くと、駅前から大学構内まで通じるペデストリアンデッキが見え、「人権」を持つ平民が何人も行き来していました。

春学期が始まり学業に追われる日々ですが、栓抜き塔を訪れたことで予期せぬ出会いもあり束の間のリフレッシュになりました。今回訪れたのは初夏でしたが、季節を変えて訪れると一味違う街並みの風景が見渡せるかもしれません。

【展望台からの風景】

栓抜き塔

【松見公園展望タワー（栓抜き塔）の詳細情報】

〇開園時間　9:00-17:00

〇休園日　第２、第４月曜日

〇入場料　大人 100 円、子ども 50 円、※団体（20 人以上）は２割引き

参考文献

・【つくば市】松見公園の不思議な形の塔に登ってきました | 号外　NET つくば市 (goguynet.jp)（最終閲覧日５月６日）

・松見公園展望塔 (tabi-mag.jp)（最終閲覧日５月６日）

・376.pdf (tsukuba.ac.jp)（最終閲覧日５月 21 日）

（社会国際学群　社会学類２年　川上真生）

後記 : この程度の断章に安住していた無知で不遜なモラトリアム男は
「73 年の世代」という語の存在を知り　心がベトつくのを感じた。

50 回転、弥栄

地動説！宇宙史的成り行きで太陽重力場の上をころころ転がる我らが母星を見よ。その表面にひしめく想像力豊かな（！）生命体は、地球が太陽周縁をグルリ 1 周すると「1 年経った」と呟く。

この度母星の 50 回転目を見届けた某国立大学がある。なるほど、その構内随所には「祝 50 周年」という公転礼賛の文字列が出現している様だが、そんなめでたき折に本誌は配信される。そのためだろう、然るべき会議にて、大まかに言って以下の如きお言葉を頂戴した。

「開学 50 年に関連した記事を可能な者は執筆願う。」

この「可能な者は」という箇所が、2001 年生まれの未熟な精神を触発するには、十分過ぎるほど挑発的に感ぜられた。忽ち私の意識は見る見る時空を遡り、遂には 1973 年という Weltpunkt[1] に到達したのである。

図 1　50

DELAY 1973

1973 年に我らが（と言うことに何ら思想的な粘性は無い）筑波大学は開学した。この事実を前にした時、寧ろ同年に終焉を迎えたものは一体何か知らん、と思うのが心的力学の自然体である。そこでまずは訃報を調べた。「オヤ」と目に留まったものを列挙してみよう。

第 1 に美濃部孝蔵、すなわち落語家の五代目古今亭志ん生が 1973 年に死んだ。9 月 21 日のことであった。晩年はもはや落語をせずともただ高座に座っているだけで良いとさえ謳われた、あの志ん生である。生の高座を知らない世代が礼賛など甚だ恐れ多いが、少なくとも私共は、志ん生の音源を聴けば直ちに心が安らぐことを知っている。それは生優しい安心などではない。自分の化けの皮が剥がされるというスリル溢れる過程の末、快楽としての安寧乃至安寧としての快楽を得るのだ。志ん生とは志ん生という名のオピュウムなのではないか、という錯覚を我々は共有する。『火焔太鼓』『粗忽長屋』『鮑のし』『らくだ』『富の久蔵』他多数……どれもこれも極上の酒であり煙草である。

そんな志ん生に魅せられた人間は沢山いる。その中で今最も有名なのはビートたけしであろう。彼は志ん生（そして柳好）について「あれが粋だと思っている。」と言い切ったのだ [2]。『その男、凶暴につき』に出てくるドライブのシーンで、運転者はラジオを流す。そこから聴こえてくる落語は、志ん生演ずる『黄金餅』の道中付に他ならなかった。

――暗闇、歩行者、銃声、死体、発砲者、点灯、火気厳禁。

「どいつもこいつも気狂いだ。」

あ！　業の肯定　　あの夜のオールナイトニッポン。　そして 『首』！

さて映画では 1973 年 8 月 31 日にジョン・フォードが死んだ。ジョン・フォードとは古典的ハリウッド映画の巨匠、と言ってもいい。が、それだけでは言い尽くせない輝きを放つ映画監督の名がそれである。アロウスミス博士の科学者人生を描いた作品『人類の戦士』を思い出そう。同作に熱を上げた淀川長治はあの『駅馬車』の宣伝に大いに狂い、小津安二郎にさえも観ることを強要したのだそうだ。観させられた小津は「これを観ない奴はバカだ」とか言ったらしい [3] が、そんな安二郎は 1973 年に死後 10 年目を迎えていた。実は本稿執筆現在、シネマヴェーラ渋谷にてジョン・フォードの特集上映が開催されている。行かない選択肢は無い。席に座るとチャイムと共に劇場が真っ暗になり、アスペクト比 1:1.33 のスクリーンに

Directed by JOHN FORD

という文字列が浮かんだ。それだけで「ああ来てよかった。」と思った。『香も高きケンタッキー』には、稲垣足穂の言う「六月の夜の都会の空」[4] 的な物が胎動していた（それはマリー・メンケンの『Lights』や『Go Go Go』という作品にも感じられた或物だった）。他にも、『プリースト判事』ことウィル・ロジャース、粋だ。『誉の名手』シャイアン・ハリー、あの刺すような眼光。『最後の一人』他の J・ファレル・マクドナルド、愛すべき顔芸。――を、綺麗なスクリーンで観ることができた。贅沢とはこの事を言う。

いけない、訃報ばかり書いても気が滅入る一方だ（ろうか）。ならばピンク・フロイドが『The Dark Side of the Moon』で全世界を席巻し、これが『狂気』という題で日本に届いたのも 1973 年だったと思い出せばよろしい。その裏で、初期のピンク・フロイドにおそらく影響を受けたであろうカンが『Future Days』を発表し、間章の如き音楽狂人を悦ばせた [5] のも 1973 年に相違なかった。ああそれと、ヴェルヴェット・アンダーグラウンドの『Squeeze』発表前後には苦しいものがあった様だが、これもやはり 1973 年だった。

図２　1973

2023 年にて韜晦す

あらゆる物がただ生まれ、死んだ！

だがそれらを無視するかの如く、50 年という時は森閑と過ぎ去った。先に示されたのは某国立大学の移転とは直接関係の無い事象の列挙に過ぎない。もし、本稿を読んだだけで西暦 1973 年が表情めいたものを帯び始めたとしたら、それは月並み以下の想像力が独り歩きしているに違いあるまい。そもそも無知で不遜な学生風情の戯言なのである。

ところで理由は伏せるが、現代に意識を戻して幾らか肩を落とす私がいる。途端に「なぜそう肩を落とすのですか」と言い、励まそうとしてくる一団がある。この場合、大抵私はひとしお肩を落とす。だが彼らに何を言おうか考えるのは正直面倒なので、古い映画からの引用をむざむざと投げつけ退場してしまおう！

Sinnspruch:

MITTLER ZWISCHEN
HIRN UND HÄNDEN
MUSS DAS HERZ SEIN!

（フリッツ・ラング『メトロポリス』より）

図３　2023

参考資料

[1]B・リーマン著，菅原正巳訳『幾何学の基礎をなす仮説について』，清水弘文堂書房，1970

[2] 北野武ほか『映画監督北野武国際シンポジウム ＆ レトロスペクティヴ』, 第 9 回東京国際映画祭協賛企画 ,1996

[3] 淀川長治『淀川長治映画塾』, 講談社 ,1995

[4] 稲垣足穂『一千一秒物語』, 新潮社 ,1969

[5] 間章『非時と廃墟そして鏡（間章ライナーノーツ 1972-1979)』, 深夜叢書社 ,1988

（理工学群　工学システム学類４年　野澤遼太郎）

編集後記

ペデじゃーなるをお読みいただきありがとうございます。今年、編集長を務めます山田です！今号は何と宿舎の話が二つもありますね。２人とも一の矢宿舎（未改修棟）という共通点がありながらもそこから生み出される物語はこんなにも違います。私も２年夏までは平砂宿舎に住んでおり、そのことを2021年春号で書いたことを思い出します。しみじみ。なんだかんだいい場所なんですよね～（そろそろ虫さんとユートピアの季節です♡）。他にも昔の筑波大を思わせる看板や、筑波大あるある（？）のエクストリーム移動の話などなど、今号は一段と懐かしさを感じさせる内容になったのではないでしょうか。それもそのはず､開学50周年を迎える筑波大を振り返るきっかけにしてほしいから！筑波大に綴った皆様それぞれの物語を思い出していただけたら嬉しく思います。

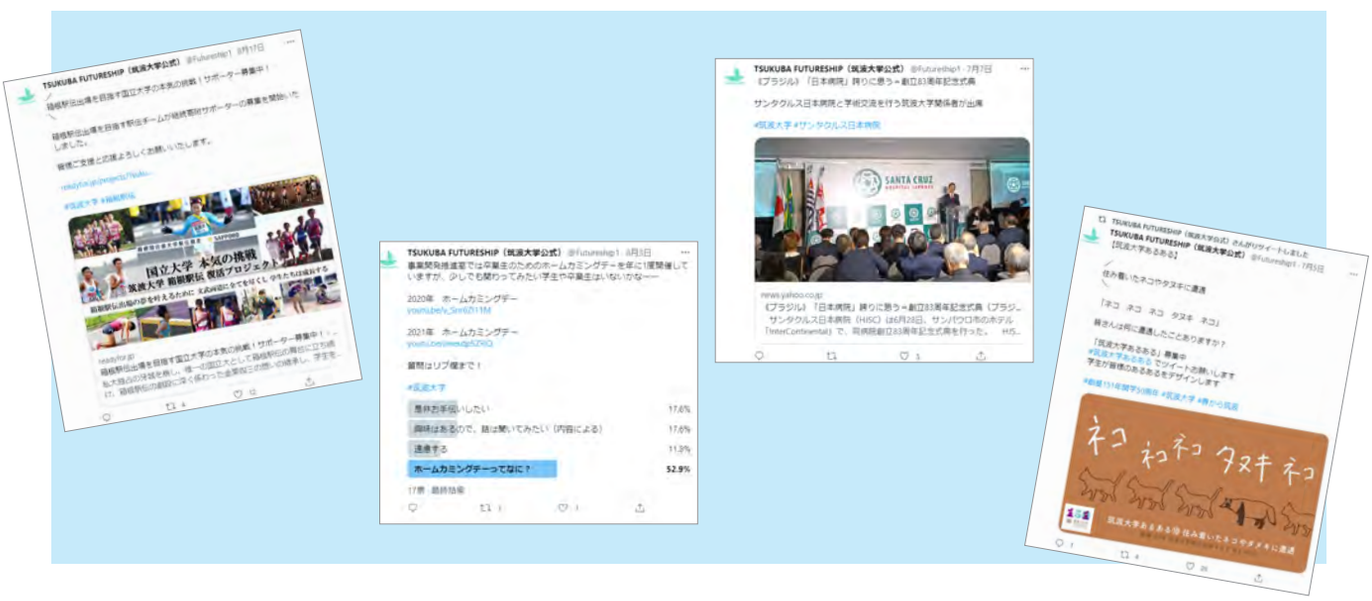
（人文・文化学群　比較文化学類４年　山田優芽）

Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて Twitter、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



- 筑波大学大学基金　https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/
- 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/
- 日経 VR「オープンキャンパス３６０～筑波大学～」
  https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/

Tsukuba Futureship（筑波大学）Facebook

TSUKUBA FUTURESHIP（筑波大学公式）Twitter

次号で第 50 号です！

「ペデじゃーなる」50 周年記念号

アンケートのお知らせ

OB・OG と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとして、年 4 回お届けしている「ペデじゃーなる」も、平成 23 年から始まり、次回で記念すべき第 50 号が発行されます。
今年の 10 月に迎える筑波大学の開学 50 周年記念にちなんで、次回からは 50 周年記念号として、卒業生が今の学生に書いてほしいテーマを募集して、そのテーマをもとに、現役学生が記事にします！

次回、夏号のテーマは「思い出の食」です。

皆様が思い出す食は何ですか？

大学近辺のご飯屋、喫茶店、居酒屋、学食などなど。皆様の懐かしい味や場所を募集します。以下のＵＲＬから卒業生の皆様からの「声」をお聞かせください。

アンケートはこちら https://forms.office.com/r/fbwjqmtHxm

※もし当時の写真などありましたら一緒に以下のメールアドレスに送っていただけると大変助かります。（次回以降のテーマの記事に使用させていただきます。食のテーマに限らず、懐かしい写真など何でも結構です。）

写真の送付先はこちら gakuyu@un.tsukuba.ac.jp

- 編集・発行：「ペデじゃーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台１丁目１－１
TEL：029-853-2030 FAX：029-853-6576

ペデじゃーなる

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。 ©2023 University of Tsukuba.

「ペデじゃーなる」のバックナンバーはこちらから
筑波大学メールマガジン『ペデじゃーなる』（tsukuba.ac.jp）

配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします
登録フォーム https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q